

令和8年度 学校経営計画書

学校番号	23	学校名	静岡県立吉原高等学校	校長名	佐田 恵子
------	----	-----	------------	-----	-------

1 スクール・ミッション

富士市内で最初に開校し、多くの人材を輩出してきた歴史と伝統を誇る高校として、校訓「正しく 強く 明るく」のもと、普通科と国際科を有する特色を生かし、多様な価値観を尊重し、地域・世界への貢献と未来の創造に向けて主体的に生きる人材の育成を目指す。

2 目指す学校像

(1) スクール・ポリシー

『生徒が主体的に伸びていく学校、生徒一人ひとりを伸ばす学校』

(自分で考え判断し取り組む、自分の行動に責任を持つ、失敗を恐れずチャレンジする生徒)

グラデュエーション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	アドミッション・ポリシー
(本校では卒業までこのような人に育てます) ○自分の目標達成に向けて主体的に取り組み、未来を切り拓こうとする人 ○社会を支える一員として主体的に地域に貢献しようとする人 ○多様な文化や価値観を尊重できる人	(本校ではこのような教育を実施します) ○主体的かつ協働的に学ぶ探究的な「授業」 ○地域と連携し主体的かつ協働的に地域の課題解決を探る「吉高ゼミ」 ○異文化理解を深める国際交流や主体的な取組で生徒が成長する「学校行事・生徒会活動・部活動」	(本校ではこのような生徒を求めています) ○自分の可能性を広げたい生徒 ○自己実現を目指す生徒 ○多様な文化や国際交流に関心のある生徒

(2) スクール・ポリシー具現化の柱

ア【育てたい生徒像】

多様な体験を通して主体的に学び、自分の得意分野を伸ばすとともに、失敗してもしなやかに立ち直る非認知能力を身に付ける。

イ【健康・安全】

心身ともに健康を保ち、安全・安心な環境の中で意欲的に学ぶ。

ウ【授業】

知的好奇心をもって、主体的に課題解決に取り組む学びを通して、確かな学力を身に付ける。

エ【進路指導】

自己実現に向けて主体的に考え、行動し、自らの進路を切り拓く。

オ【異文化理解】

異文化理解を深め、互いを尊重しながら、状況に応じてリーダーにもフォロワーにもなれる資質を身に付ける。

カ【地域連携、信頼される学校づくり】

地域との連携を一層深めるとともに、保護者・地域の期待に応える教育活動を推進し、信頼される魅力ある学校づくりに努める。

キ【教職員】

協働的に教育活動および校務運営を行い、専門性の向上を図るとともに、ワーク・ライフ・バランスの実現に努める。

3 本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標	担当部署
ア	多様な体験を通して主体的に学び、自分の得意分野を伸ばすとともに、失敗してもしなやかに立ち直る非認知能力を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ビブリオバトル、図書だよりを充実し、本や活字から文化に触れ、多様な思考を学ぶ機会を増やす。 ・生徒主体で企画する文化祭等の学校行事の実施。アイデアや取り組む姿を認める。 ・授業や研修で学んだ内容をポスターやスライドにまとめ、発表し、質疑応答を行うなどして、理解を深める活動を年一回以上実施する。 ・吉原高校の生徒としての基礎を確立し、各種学校行事に積極的に取り組ませ、主体的な取り組みを支援する。 ・生徒会活動や部活動、また学級活動において各自の役割を果たす。 ・結果ではなく、挑戦した過程を称賛する仕掛けを学年全体で作し、「教員がお膳立てしない」ことで、予期せぬトラブル（失敗）への対応力を身に付ける。 ・関係研究者等の指導・助言を得る機会を年内に設け、チーム学校としてまとめていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「落ち着いて朝読書に取り組むことができた」と答える生徒の割合80%以上。 	教務課
			<ul style="list-style-type: none"> ・「学校行事に満足している」と答える生徒の割合90%以上。 	生徒課
			<ul style="list-style-type: none"> ・「ポスターやスライドを使用した発表を工夫して行い、質問や討論を通じて理解を深められた」と答える生徒の割合70%以上。 	国際科
			<ul style="list-style-type: none"> ・「失敗しても自分なりに解決し、立ち上がることができる」と答える生徒の割合70%以上。 	1年
		<ul style="list-style-type: none"> ・同上 		2年
		<ul style="list-style-type: none"> ・「失敗してもうまくできても自分の力で道を切り開き、高校生活のすべてをやり切った」と答える生徒の割合70%以上。 		3年
		<ul style="list-style-type: none"> ・本校で育成する非認知能力の指標の言語化を図る。 		管理職・教務課
イ	心身ともに健康を保ち、安全・安心な環境の中で意欲的に学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> ・分掌間で連携し、教室環境、スムーズな行事遂行、良好な友人関係を整え、落ち着いた心を涵養する。 ・日頃から、傾聴、声掛け、受容、共感の姿勢で生徒1人1人と接する事を心掛ける。 ・新たに「メンタルヘルシート」を用いた、生徒観察の多面的な把握を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欠席率・遅刻率・早退率が前年度よりも減少。 	教務課
			<ul style="list-style-type: none"> ・「HRや部活動の中で自己有用感を持っている」と答える生徒の割合90%以上。 ・「自分の思い、考えを言語化できる」と答える生徒の割合90%以上。 ・不登校生徒数が昨年度より減少。 	生徒課

		<ul style="list-style-type: none"> ・全ての生徒が安心して学校生活を送れる環境を整備するため、いじめの未然防止・早期発見・迅速な対応を組織的に推進する。 ・毎学期末に安全点検を実施し、教室や施設の状態を確認し、報告する。 ・長期欠席を未然に防ぐために、担任会ないしは学年会を月一回以上実施することで困難を抱える生徒の情報共有を行い、日常的な声掛けを行う。3日続いた欠席には直接電話連絡を行う。 ・定期試験など節目となる時に欠席や遅刻をしないように毎朝の健康チェックを活用し、自己管理を徹底させる。 ・自身の興味・関心に基づいた、進路への具体的な学習計画を各自で計画させる。 ・毎学期末に教室や施設の安全点検を実施、教育環境の安全保持に努める。 ・学校敷地内の死角となる箇所をあらかじめ把握し、生徒が被害者となるような不祥事案を含めた事件・事故の未然防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校は自分にとって安心して過ごすことができる場所である」と答える生徒の割合 100%。 ・安全点検の実施率 100%を達成し、事故件数が 0 件。 ・日常的に生徒の細かな変化や表れについて情報交換ができた。 ・欠席、遅刻率が前年度から減少。 ・「発表、議論、実践等に積極的な参加ができ、主体的に取り組めた」と回答する生徒の割合 70%以上。 ・施設・設備不良における事故 0（ゼロ）。 ・管理職による年 1 回以上の環境点検を実施する。 	<p>総務課</p> <p>1 年</p> <p>2 年</p> <p>3 年</p> <p>事務室</p> <p>管理職</p>
ウ	<p>知的好奇心をもって、主体的に課題解決に取り組む学びを通して、確かな学力を身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとに家庭学習時間調査を実施し、結果を生徒にフィードバックすることで、学習習慣を定着させる。 ・ICT 機器・アプリケーションを充実させるとともに、授業研究週間等を通じて活用方法を共有する。 ・探究会議や学年間・教科間の連携によって、組織的に探究サイクルを回す。 ・ICT や資料を活用し、テーマや作品に基づく探究的な学習を盛り込んだ授 	<ul style="list-style-type: none"> ・1 週間の家庭学習時間の 1 日平均が、1・2 年生：2 時間以上、3 年生：2.5 時間以上。 ・「ICT 機器を活用し授業を展開できる」と答える教職員の割合 90%以上。 ・「総合的な探究の時間を通して、自身のライフプランについてより深く考えるようになった」と答える生徒の割合 80%以上。 ・「ICT や資料を活用し、授業で調べたことをまとめたり、発表したりした」 	<p>教務課</p> <p>国語</p>

		<p>業を年 1 回以上実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な史資料を活用し、歴史や地理、政治・経済について幅広く深めることができる授業を毎時間意識して実施する。 ・日常的な題材を用いた数学の問題を各単元において扱う。 ・各科目（物理・化学・生物）の毎回の授業で生徒に振り返りシートを配布し、自主的な省察を促す。 ・各単元の内容について生徒に自己評価を行わせ、生徒の主体性の程度、学習内容の理解度を確認する。 ・広い視野で物事を考え、それを英語で表現することができる能力を養う。 ・新体力テストで目標を各自設定させ、昨年度の記録を向上させる。 ・アンサンブル活動において、全体の響きを良くするための課題（リズムのズレ、音色の融合等）を特させ、自分なりの練習方法を考案させる。 	<p>と答える生徒の割合 80% 以上。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「授業内容が楽しくてわかりやすい」と答える生徒の割合 95% 以上。 ・「授業の問いに対して主体的に取り組めた」と答える生徒の割合 80% 以上。 ・「課題や実験などに自らの問いをもって積極的に関与している」と答える生徒の割合 85% 以上。 ・「各科目（物理・化学・生物）の学習内容を理解し活用できている」と答える生徒の割合 75% 以上。 ・「自分の考えを英語で表現することができる」と答える生徒の割合 90% 以上。 ・教育委員会が主催する、新体力テスト記録会にて、昨年度の記録を更新する。 ・「地域や社会に届ける音楽」をテーマにし、音楽活動に意欲的に参加し発表できる。 	<p>地歴</p> <p>数学</p> <p>理科</p> <p>英語</p> <p>保体</p> <p>芸術</p>
エ	<p>自己実現に向けて主体的に考え、行動し、自らの進路を切り拓く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・探究活動、進路研究会等で、社会の中でいかに主体的に他者と関わり自己実現を図るか、長期的な視野で考えることが進路実現への道であるとの理解を促す。 ・進路に関する情報を家庭、生徒へ十分に提供する（C ラーニング、保護者会、進路通信、進路研究会等）。模試事前事後指導を行い、模擬試験結果を的確に学習や進路選択に活かす。また、生徒・保護者が進路に関する相談をしやすい環境を作る（面談、Google フォームによる調査等）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路決定にあたり、社会の中でいかに主体的に他者と関わり自己実現を図るか、長期的な視野で考えられた」と答える生徒の割合 90% 以上。 ・「学校から提供される情報または教師との相談が、進路を考える上で役立った」と答える生徒の割合 90% 以上。 	<p>進路課</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・進路指導に関して、学校と家庭のコミュニケーションが常に図られるように、学期末等の面談を充実させる。 ・総合的な探究の時間やLHRを通し、自分の興味のある分野別学習を行い、納得のいく文理選択ができるよう支援する。 ・LHRを有効活用し、集団や仲間づくりをする。探究活動において客観視することを意識させ、自己を見つめる契機とする。 ・吉高ゼミ等を利用し、これまでの部活動や学校行事等の経験を振り返り、自分の強みと自身の価値観を言語化する。 ・模擬選挙を中心とした主権者教育を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・解き方を説明するだけでなく、説明しあう時間をとったり、教科書の行間を説明したりする。 <ul style="list-style-type: none"> ・各科目（物理・化学・生物）の授業において、各単元のまとめの場面を活用し、学習内容に関わる学問分野や職業についてキャリア教育を行う。 ・英語を使うことが必要とされる場面において、積極的にコミュニケーションを取ろうとする意欲やそれを後押しする英語運用能力を養う。 ・体育祭、球技大会、長距離走大会の体育的行事より、様々な立場の生徒が、学年を越えて様々なことに積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「進路指導に関して、学校と家庭のコミュニケーションが図られている」と答える生徒、保護者の割合80%以上。 ・「吉高ゼミ、LHRが進路研究や文理選択に役立った」と答える生徒の割合70%以上。 ・「吉高ゼミ、フィールドワーク、探究発表会において、自分の役割を果たした」と答える生徒の割合80%以上。 ・「志望理由書や面接において、自分の言葉で一貫性のある説明ができるようになった」と答える生徒の割合80%以上。 ・「主権者教育を通して選挙や社会課題に関する興味・関心が高まった」と答える生徒の割合80%以上。 ・「問題を解くだけでなくなぜその解法になるのか、根拠や理由まで考えようとした。」と答える生徒の割合75%以上。 ・「将来の目標やなりたい自分に近づくために、自分から学ぼうとする姿勢を先生が支えてくれた」と答える生徒の割合が75%以上。 ・「旅行やボランティア活動などの際に外国人と英語でコミュニケーションをとることができると思う」と答える生徒の割合80%以上。 ・「各行事において、自分の役割を果たし、達成感があった」と答える生徒の割合80%以上。（体育委員会・一般生徒） 	<p>1年</p> <p>2年</p> <p>3年</p> <p>地歴</p> <p>数学</p> <p>理科</p> <p>英語</p> <p>保体</p>
--	--	---	--	---

オ	<p>異文化理解を深め、互いを尊重しながら、状況に応じてリーダーにもフォロワーにもなれる資質を身に付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン交流や異文化体験研修、英語セミナーなどを通して、英語やほかの言語に触れたり、会話以外で補ったりして、外国人と積極的に意思疎通を図る。 ・普通科、国際科の隔てなく、異文化理解に興味を持てるように、授業や集会で各国の文化や生活習慣・価値観の違いを紹介する。 ・自己の長所を伸ばし、仲間を尊重することで互いを知る。 ・様々な教科の学習を通して時事問題や国際ニュースに対し、国、世代、利害関係者等の立場から意見を言うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「研修や交流に参加したことで、コミュニケーション能力が伸びた」と答える生徒の割合 80%以上。 ・「多様な価値観に触れ、自分の見識を広めることができた」と答える生徒の割合 90%以上。 ・海外研修や修学旅行に積極的に参加し、他者を理解することができた。 ・「意見の対立が生じた際、感情的にならずに『共通の着地点』を提案できるようになった」と答える生徒の割合 70%以上。 	<p>国際</p> <p>1年</p> <p>2年</p> <p>3年</p>
カ	<p>地域との連携を一層深めるとともに、保護者・地域の期待に応える教育活動を推進し、信頼される魅力ある学校づくりに努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の基盤を整備し、生徒・教職員が参画した情報発信を推進する。 ・地域のボランティア活動などへ積極的に参加したり、地域防災訓練にも積極的に参加するよう呼び掛ける。 ・社会人講話を行い、地域の人々とつながりをもたせる。規範意識を身に付けさせ、人間性の向上を支援する。 ・創意工夫により魅力的な校内環境充実の予算を確保し執行する。 ・SNSによる情報発信を活性化させ、教育活動や生徒の活躍を広く公開し、地域・保護者に開かれた学校づくりを推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「吉高の魅力発信に一つでも努めることができた」と答える教職員の割合 80%以上。 ・「個人または部活動等でボランティアに携わった」と答える生徒の割合 30%以上。 ・地域防災訓練参加率 50%以上。 ・ルールやマナー、あいさつといった基本的な規範を身に着け、実践している。 ・生徒にとっての魅力的な校内環境の向上。 ・本校公式 Instagram の年間総インプレッション数（閲覧数）が前年度比 3% 増加。 	<p>教務</p> <p>総務</p> <p>1年</p> <p>事務室</p> <p>管理職</p>
キ	<p>協働的に教育活動および校務運営を行い、専門性の向上を図るとともに、ワーク・ライフ・バランスの実現に努める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ICTを取り入れた仕組みづくりを推進し、コスト対効果の高い業務改善を行う。 ・学年や役割分担にこだわらず、多岐多様な問題に対して、生徒課全員で関わり問題解決していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「ICTを活用して業務改善を行った」と答える教職員の割合 90%以上。 ・毎週に分掌会議の際、必ず全員が発言できるようにする。(学年近況についてなど) 	<p>教務課</p> <p>生徒課</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に連絡や相談を行うと共に、分掌にこだわらずに業務の分担バランスをとる。ワークライフバランスを互いに呼びかける。 ・学年会または担任会を定期的に持つことで互いに情報交換し、連携を深める。 ・最新の入試情報や指導事例等を共有するために、学年会や担任会を定期開催する。 ・適正な学校経営予算の編成と執行。 ・管理職のマネジメントのもと、業務量の平準化を図りながら、時間外勤務の軽減に向けた職員への声掛けを積極的に行う。 ・部活動ガイドラインに基づき、活動時間や休養日の適正化を徹底するとともに、効率的・効果的な部活動運営を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年部内での負担が偏らない状態になる。 ・仕事の偏りや負担感がない状態になる。 ・学年団の全教員が、自身の教科外や担当外の入試形態についても基礎的な助言ができる。 ・検査・監査での文書指摘0（ゼロ）。 ・教職員の時間外勤務時間総合計が前年度より減少する。 ・各部活動顧問から毎月必ず「部活動予定表」が提出され、部活動ガイドラインに沿った活動時間および休養日が適切に設定されている。 	<p>1年</p> <p>2年</p> <p>3年</p> <p>事務室</p> <p>管理職</p>
--	--	--	--	---